

SAKASO

「さかそう」

ご自由にお持ちください

特集

周術期管理 チーム



2026.6 Vol.78

お知らせ

坂総合病院に入職した新入医師をご紹介します！

2026年春、坂総合病院に6名の初期研修医が加わりました。4月よりそれぞれが担当する科に配属され、医師としての第一歩を踏み出しています。患者の皆さん、そして地域の皆さん、どうぞよろしくお祈りします！

当院で行っている研修内容はホームページ「医学生・研修医のひろば」をご覧ください。

こちらからチェック！



診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただきご確認をお願いいたします。

コールセンター **022-361-8288**

- 平日 8:30～16:30 (小児科のみ8:00～)
 - 土曜 8:30～11:30 (小児科のみ8:00～)
- ※日曜・祝祭日、年末年始(12/30～翌年1/3)、8/16(お盆)は休業。

◎紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。
◎上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号(022-365-5175)にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。

坂病院 🔍 検索 <https://www.m-kousei.com/saka/>

表紙について

各々の好きなものを持ち寄った周術期管理チーム。李先生(後列左)と近藤先生(中央)はともに大好きだというハリー・ポッターのアイテムを。臨床工学技士の大山さん(後列右)はコーヒー、看護師の滝浦さん(前列左)は出身地・弘前の名産品であるリンゴ、小澤さん(前列右)はお菓子を手に撮影に臨みました。緊張感が伴う業務の合間に、にこやかな表情を見せてくれた5人でした。

●表紙撮影/坂総合病院



- 電車の場合 ▶ JR仙石線・下馬駅下車。駅前が当病院です。
- お車の場合 ▶ 第三駐車場は、当院ご利用の方は**無料**です。第三駐車場と病院間の送迎バスを運行しています。

SAKASO 坂総合病院 広報誌「さかそう」
2026年6月1日発行

坂総合病院
SAKA GENERAL HOSPITAL

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5
<https://www.m-kousei.com/saka/>
【広報誌に関するお問合せ】Tel 022-365-5175(代)



手術を安全・安心に行うための“術前外来”とは



近藤先生による術前外来の様子。外来医師や看護師、薬剤師によるヒアリングを経た一連の取り組みが、より安全な周術期管理につながっている

特集

周術期管理
チーム

毎回テーマを変え、坂総合病院の今を発信。
今回は周術期管理チームをピックアップします。

患者さんの手術を支える周術期管理チーム。
昨年から始まった看護師による術前外来は
患者さんの心身に様々な利点を生んでいます。
その現状と役割について、麻酔科医の
近藤紀子先生、看護師の安藤有里さん、
高木庸臣さん、滝浦美穂さんに話を聞きました。

—— 周術期管理チームは、どんな職種で構成されていますか？

近藤 周術期とは術前から術後までの期間を指します。周術期管理チームでは手術を受ける患者さんに対し、麻酔科医、手術室看護師、薬剤師、理学療法士や作業療法士、管理栄養士などの職種が連携し、安全性と質の高いケアを提供しています。電気メスや麻酔器のチェックをはじめ、手術中に数多くの機械をコントロールしてくれる臨床工学技士も周術期管理チームには欠かせません。もちろん患者さんとその家族もチームの一員。手術に携わるすべての人たちが連携し、手を取り合うことを意識しています。

周術期管理チームによる医療は2008年頃から国内で提唱されていますが、坂総合病院では明確にチームとしての線引きをしているわけではありません。手術室ではいつでも麻酔科医と看護師が手術に対応できるよう準備を整えながらも、待機しているだけでなく、患者さんの診療にも出向くという体制になっています。

—— 坂総合病院では、2021年からは麻酔科医による術前外来を、また2025年からは手術室看護師による術前外来を行っていると聞きました。医師ではなく看護師が外来を担当することにはどんなメリットがあるのでしょうか。

近藤 術前外来は手術を受ける患者さんにとって大切な時間になります。その時間で看護師は患者さんへ問診を行い、必要な情報収集と手術に向けた説明を行うからです。以前から私が麻酔科医として術前外来を担当する時には看護師に同席してもらい、患者さんの理解を促すアシストをしてもらっていました。医師だけの診療内容ではどうしてもフォローし切れないこともありましたが、例えば、普段メガネを掛けている患者さんが手術室の入室時にメガネを外すことで歩行が不安定になつてしまつたとか、杖をついている患者さんは入室時に補助が必要になるだとか……。そこから、医師の説明をアシストするだけでなく、看護師だからこそできる

必要なケアがそこにあるだろうと看護師自身が気づいてくれたのではないかと感じています。

—— 以前は手術の前日に手術室の看護師が病棟を訪問して、患者さんの不安の聞き取りや手術の説明をしていました。ですが、手術室を安定的に運営するためにはマンパワー不足の問題が起きてしまつて……。こうした経緯から、麻酔科での術前外来に看護ケアの支援を取り入れた看護師による術前外来が立ち上がりました。もちろんこれまでも看護師は手術を控えた患者さんに対して手厚いケアを行ってきました。手術を受ける患者さんのために、医師や看護師など様々な職種が連携しやすい形に組み替えた」という表現がふさわしいかもしれませんね。

看護師による術前外来が始まつてから、手術前の段取りはこれまでよりはるかにスムーズになりました。私が外来診察を担当する前に看護師がいろいろ聞き出してくれることでより患者さんの身体について深く知ることができまふし、私からの質問も開示し

—— 看護師による術前外来を始め、術前外来では手術の説明から不安の聞き取り、情報収集まで一度にできることで、患者さんにとっての負担が少なく

やすくなっているのを感じているところですよ。

—— 看護師による術前外来を始めてから、患者さんにはどんなメリットがもたらされたと感じますか？

滝浦 以前は手術が集中してしまつと、翌日に手術を控えた患者さんを訪問できないことがありました。術前外来では手術の説明から不安の聞き取り、情報収集まで一度にできることで、患者さんにとっての負担が少なく



申し送りを行う病棟看護師と手術室看護師。カルテとチェックリストを確認しつつ、口頭でも患者さんの情報を共有する

「術前外来」ではどんなことをするの？

坂総合病院では2021年から始まった「術前外来」。毎週月・木曜日の午前中、外来手術室内で行われています。なかなか聞き馴染みのない言葉ですが、患者さんが安心して手術に臨むことができるよう、安全・安心な手術環境を整える大切な場所です。周術期管理チームは周術期のリスクを提言し、手術療法の効果を最大化することを目標に日々患者さんと向き合っています。

どんな人が術前外来を受診するの？

手術を受けることが決まった患者さんは、基本的に全員が術前外来を受診することになっています。なお、1ヶ月以内に手術を控えている方が対象です。

どうして麻酔科医が外来を担当するの？

麻酔科医は手術中の麻酔管理だけではなく、手術前後の患者さんの全身状態を良好に維持・管理する専門医です。そのため、手術が確定した日から術後回復期まで、患者さんの状態に細心の注意を払いながら診察を行います。

術前外来ではどんなことを聞かれるの？

問診や持病、現在服用している薬についてなど、看護師が患者さんの手術に必要な情報をうかがいます。どの質問も、安全に手術を行うための大切な質問です。患者さんから得た情報はカルテに記載し、医師をはじめとする手術当日の担当者と共有します。

術前外来を受けた患者さんの反応は？

「事前に手術室の中の雰囲気を知ることができてよかった」「手術当日、外来を担当してくれた看護師さんがいてくれたので安心した」「事前に心配や不安に耳を傾けてくれたので安心した」という声をいただきました。今後も患者さんのためにより安全で安心な手術を目指し、取り組んでいきます。

手術当日の医師と看護師たち。手術前には患者さんの身体や持病に合わせた薬剤や道具が万全に用意される



効率的になったと感じています。
安藤 これまでは患者さんを担当している看護師が術前訪問にうかがう決まりになっていて、その看護師でなければ患者さんの情報がわからないという状況でした。しかし今では患者さんから聞き取った情報や記録はすべてのスタッフが閲覧できるカルテに記載するので、どのスタッフも一様

に情報を把握できるようになったのは大きな利点です。患者さんだけでなく、スタッフへのメリットにもなっています。
高木 術前外来が術前訪問を兼ねていることで、患者さんとスタッフのどちらにとっても時間的な負担の軽減につながっていると、思います。以前と比べて、より効率的に手術への準備が進められるようになったのではないのでしょうか。

近藤 術前外来では患者さんへ禁忌（患者の予後を悪化させてしまう危険性が予測されるため、薬物の投与や看護ケア、検査、治療などを勧めることができない特定の状況のこと）についてもヒアリングをしますが、キウイやバナナにアレルギーがある患者さんの手術をする場合、私たちは手術道具に天然ゴム素材のものは使えません。キウイなどに含まれているタンパク質が天然ゴムの成分と似ているためです。患者さんにとつては何気なくアレルギーの有無について質問されていると感じているかもしれませんが、質問ひとつから看護師たちが適切な手

術道具について情報共有をして、手術日当日に向けた準備を行っています。坂総合病院は救急病院ですから、予定された手術だけでなく、緊急手術にも対応しなければなりません。そんな緊張感のある中でも、手術室の看護師たちが患者さんの最善なケアに努めているということはぜひお伝えしておきたいですね。

——周術期管理チームの一員として、今感じている課題や今後の展望について教えてください。

滝浦 ここ最近では、患者さんの術後訪問になかなか行くことができていません。それが個人的な課題です。やはり術後の患者さんのお話にはしっかりと耳を傾けたい。その実践ができたらいなと思います。

安藤 最近では全身麻酔や局所麻酔について、患者さんへ向けた解説動画を作成する病院が増えているようです。こうした動画は手術を控える患者さんの理解を深めますし、不安も軽減できるはず。さらに私たちスタッフと思

者さんとのコミュニケーションにもつながるはずです。坂総合病院では、看護師でオリジナルの動画をつくれたらいいなと思っています。
高木 私は後輩育成に力を入れたいですね。医療の現場では新しい受診システムがどんどん整備され、医療技術も進歩していますが、それを維持できるマンパワーとしても、主体性を持って業務に取り組んでくれるスタッフが増えてくれるといいなと感じています。長年手術室の業務に携わってきた私たちが若いスタッフたちが頑張れるようにフォローすることで、手術室だけでなく病院全体がよくなるのではないかと考えているところです。

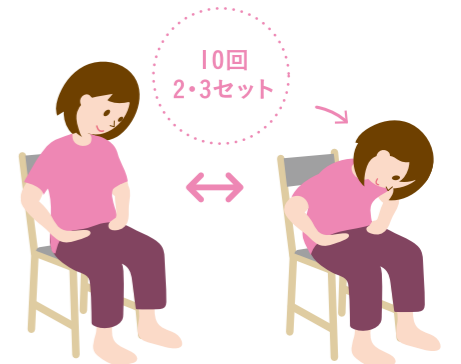
近藤 こうした問題は当院だけではなく、全国の病院で生まれている課題です。今後は診療と教育の両輪を回すことができる病院が生き残っていくとすら感じています。若い世代が集まって業務に取り組み現場をつくるために、スタッフだけでなく患者さんにとつてもいい両輪を回しながら、急性期の礎として地域を支えていきたいですね。

#23 自宅で行う簡単ストレッチ②

「みやぎ東部健康福祉友の会」が毎月オンラインで開催している「自宅で簡単健康ストレッチ」。そこで紹介されている運動を連載で紹介します。今回は、座ったまま腹筋に刺激を与える運動です。

座って腹筋を鍛える運動

- 1 椅子に座った姿勢であごを引き、へそを覗く。
- 2 息を吐き背中を丸めながら、ゆっくりお辞儀をする。
- 3 息を吸いながらゆっくり起き上がる。
10回×2～3セットを繰り返し行う。



「運動療法センターのびのび」とは…?

坂総合クリニック1号館6階にあるメディカルフィットネス。健康増進・疾病予防運動、生活習慣病の運動療法、介護予防運動などを実践する施設です。

※現在は感染症対策のため、特定の病気の重症化予防を目的として個別にご利用いただいています

連携医のご紹介

塩竈市立病院

[内科・外科・整形外科・皮膚科・小児科 など]



院長
真野 浩 先生
(まの ゆたか)



内科・外科・整形外科・皮膚科・小児科など
塩竈市立病院

〒985-0054
宮城県塩竈市香津町7-1
TEL 022-364-5521
URL <https://city-hospital-shiogama.jp/>

〈外来受付時間〉
午前7:30から、午後12:00から
※受付終了時間など、各科の予定は
ホームページをご覧ください



ともに、地域医療を担い続ける存在に

塩釜市立病院は、坂総合病院からは直線で400mほど北側、窓を開ければ互いにその建物が見える位置にあります。

当院は公立病院として、急性期医療から回復期医療、在宅医療、そして離島での診療など、地域から必要とされる医療を幅広く提供できるよう努めています。高齢化時代を迎えた現在、特に回復期医療に力を入れていきます。回復期医療を提供する病床は「地域包括ケア」病棟と呼ばれ、急な病気や手術などで一時的に低下した身体機能の回復を目指します。そこでは医師や看護師

をはじめ、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、そして看護補助者など多彩な職種スタッフが活動し、カンファレンスなどを行いながら在宅復帰を支援しています。

医療の高度化、集約化のため、現代の医療システムは非常に複雑なものになってしまいました。そのような環境の中、坂総合病院とは互いに力を合わせ、地域医療を担い続けていけるよう取り組んでいきたいと考えています。これからどうぞよろしくお願いたします。

坂総合病院から

距離的にも連携の上で最も近い医療機関である塩釜市立病院。高齢患者さんの回復期医療の受入には特に尽力いただき、感謝を申し上げる次第です。外来部門でも当院産婦人科の松山由有子医師が支援にうかがうなど、連携の輪が広がっています。今後も更なる連携の強化に努めていきます。

「パタカラ体操」を始めよう

何歳になっても食事はおいしく味わいたいもの。口周りの筋肉を鍛える運動が、口から喉にかけての筋力低下や誤飲を防ぎます。

パタカラ体操とは？

口を使う代表的な体操のひとつ。食べ物を上手にのどまで運ぶ動作を鍛える、発音による体操です。加齢に伴い顔の筋肉が弱ってくると、口の周りの筋肉や舌の動きが悪くなってしまいます。それを予防するためにパ・タ・カ・ラと発音し、顔の筋肉のトレーニングを行います。楽しみながら実践してみましょう。



発音方法

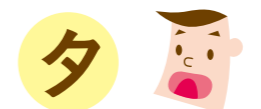
唇を破裂させるように

口の動き

上下の唇の開け閉め
「パパパパパ…」

筋力が弱ると…

吸う・飲むが難しくなる



発音方法

舌の先を歯切れよく

口の動き

舌の先「タタタタ…」

筋力が弱ると…

食べ物を押しつぶせなくなる



発音方法

舌の奥をのどに押し付けるように

口の動き

舌の奥(付け根)
「カカカカカ…」

筋力が弱ると…

飲み込みが難しくなる



発音方法

舌の先をくるくる回す

口の動き

舌を反らせる
「ラララララ…」

筋力が弱ると…

食べ物をまとめにくくなる